

## 第2回 自動車の高度化に伴う安全確保策のあり方検討会

1. 日 時：令和3年12月14日（火）10：00～12：00
2. 開催方式：WEB 会議方式
3. 出席者：飯田委員、伊東委員、岩貞委員、加藤委員、小池委員、木場委員  
須田委員、竹内委員、船越委員
4. 議事（概要）  
【事務局及び各団体からの説明】

○本検討会の検討事項に関する進捗状況などを説明した。

- ・ 事務局から、日常／定期点検項目におけるセルフチェック機能の動向調査の結果、故障コードの内容及び傾向分析の状況、自家用乗用自動車におけるバッテリーEVに特化した点検基準案などを説明した。また、団体意見として、日本自動車工業会から OBD 機能調査及び点検・検査の合理化に向けた提言などを、日本自動車整備振興会連合会から自動車整備業界の現状、課題及び対応案などを説明いただいた。
- ・ 事務局から、不具合／故障データの利活用策の検討に向けた事例調査及び関係団体へのヒアリング調査の結果などを説明した。

### 【委員からの主な意見】

- 故障コードの分析に際し、ドライバーの特性を踏まえた追加分析を行ってはどうか。ドライバーの運転傾向などの観点で分析することで、バイアスを排除しつつ、異なった結論を得る可能性がある。
- 自動車の性能が向上している中、ユーザーの負担軽減のため日常点検の項目から除外できるものもあるのではないかと。再整理いただきたい。
- 警告灯及び表示灯の数が多すぎるために、ユーザーにとっての視認性が低く、内容を理解しづらい状況となっている。警告灯について、ユーザー自身で対応可能なものか、整備工場に入庫する必要があるものか、に分け、例えば整備工場に入庫すべきものは1つの警告灯に集約し、ユーザーに入庫を促すなど、数を減らす工夫を検討いただきたい。
- 警告灯が点灯するような不具合／故障はいつ、どこで発生するか分からないため、メーカーの販売店のみならず、全国9万の整備工場を活用して対応ができるような体制／環境整備を進めるべきではないか。

○ブレーキパッド消耗監視システムによる従来の点検方法の代替案については、実現可能か疑問がある。現在の点検では、適正化通達に基づきパッドの厚みに加えて摩耗状況などの確認や、パッド残量のユーザーへの伝達なども行っている。システムによる従来の点検の代替えにあたっては、点検頻度や技術的な信頼度も踏まえた判断が必要であると考えられる。

○ユーザーからは警告灯の表示内容に関する問い合わせをいただいている。意見報告の内容にあったように、テキストメッセージや音声メッセージによる警告灯の案内は有効だと考えられる。

○日常点検の項目を減らすことで、ユーザーの利便性向上が高められる可能性がある一方、定期点検までの期間の安全性を担保するために、まだ使える部品についても、より頻繁にユーザー側で予防交換いただく状況が生じる可能性がある。その場合、結果的に、ユーザーにとって不利益となる恐れもあり、日常点検と予防交換による負担のバランスを考慮しつつ検討を進める必要があるのではないかと考えられる。